

下山は宮川神社コースでこちらの方が整備されており歩きやすい。ふもとに近い尾根斜面に明智光秀の丹波八上城攻めの重要拠点となったと言われている神尾山城跡が残っており、その一部であった金輪寺は今も健在である。約2時間弱で登山口の駐車場に到着し、その後今日の宿となるウッディパル和知に向う。約2時間弱の15時半に到着。



金輪寺



神尾山城跡

ウッディパル和知はわち川の畔に設けられており、町営の施設のため割安で我々は2階建てのコテージ1棟を借りた。1階はキッチンと居間とトイレ・バス等で2階は6畳2間とテラスと廊下付きで10人まで宿泊可能となっている。

早速、女性群は食事の用意、男性群は交代で入浴することにした。料理は事前に用意されていたため、4時過ぎから今回のメインのイベントである「植西翁（90歳）卒寿を祝うパーティ」の始まりです。ところ狭しと並べられた御馳走を囲んで9時過ぎまで歓談し、2階の6畳二間と一階に分かれて就寝につく。

翌日は差入れの新米を戴き、昼食のお弁当を作って戴き、8時過ぎにコテージを出発し、10分程度で登山口に到着。登りは樹木の間から刺し込む朝日を浴びながら森林公園・展望台まで林道を進む。展望台からは紅葉に染まる登山道を約2時間40分位で長老ヶ岳の頂上に到着。

頂上からは360度の展望が開けており、北の方角には若狭富士と言われる青葉山の双耳峰がハッキリと見える。昼食と集合写真を撮り、下山。下山コースは近畿自然歩道の林道が中心。約1時間40分で登山口に到着する。

登山口から150m程度歩くと京都自然200選に選ばれている「七色の木」と書かれているので寄り道をして見に行った。それはカツラの木から6種類（スギ・ケヤキ・カヤ・フジ・イロハモミジ・カエデ）の木が生育している太さ7.1m高さ18mという珍しい巨木である。丁度、紅葉しておりとてもキレイだった。

京田辺には15時半に無事到着。仲間と天気と良い企画と美味しい料理に恵まれた楽しい山行でした。又、来年もと言う声が上がっており、何時まで続くか判りませんが体力を維持しながら楽しみたいと考えています。

ヒヤリハット

なし

一口感想文

山下 隆 83才

今年3月、当会の長老組と超元気な89才のOBとで蛇谷山雪山登山を試みた時に90才の時にはお祝い登山をすることを約束し、色々探して京都北部の長老ヶ岳となった。前夜のロッジでは名人の料理と差し入れの手作り新米でスタミナをつけ翌日に備える。

以前登った山だったが、歩いてみると、すっかり忘れていて新鮮だった。天候もよし、紅葉もよし、カサコソと落ち葉の中を歩く乾いた音は録音しておきたいくらいだ。斜面の落ち葉や林の情景は芦生を思い出す。道は頂上までなだらかな傾斜で良く整備され、頂上までの所要時間2:40は自分の体力では無理もなく丁度良かった。頂上での展望も



360度で最高の気分だ。下山した時は運転手さんには申し訳なかったが、普段飲み慣れないお祝いの高級ビールも格別だった。健康で歩けることの幸せを更に深めた山行でした。自分が90才になった時もこの長老ヶ岳に仲間と又登れるように努力したいものです。その時は今日の仲間の大部分は80才を超えていて、一番若手も77才。今日の90才の仙人曰く「何人かの祝いをまとめて、早めに計画してくれ。そうでないと私が行けなくなる恐れがある」と。



長老ヶ岳の頂上から北を望む

一口感想文

若林憲治

山友会OBの植西さんが10月28日満90歳を迎えられ まだ 山に行きたい 出来れば宿泊山行を とのご意向に添い2台の車で京都北部の2座選択。

今年2月実施の綿向山(雪山)メンバーを中心にYさんOさんが企画され小生も参加させて頂いた。事前に地域の情報収集にあたられたYさん 天気も良く今の環境下で有れば雲海発生の可能性あり 亀岡の雲海を見に行こう 急遽足を延ばす事に成った。 亀岡カントリ一直ぐ近くの展望台から見た雲海は最高のロケーション地であり山登り前に全員雲海に感動。

本日登山の半国山(774m)山の命名に興味あり山頂にて由来が判明。 山頂から丹波の国が半分見えるといわれる事から命名 全員納得。



亀岡・霧のテラス

下山後、宿泊環境にも恵まれ 2 名の料理ソムリエが参加されておられ盛沢山の料理に大満足。話題も次回登山計画に 7 年後には新たな対象者を全く同じコースでセットする等盛り上がったが 長老の植西さんからはクレーム 7 年後迄は待てないので毎年実施してほしい (笑) R5 年は幸い喜寿対象者あり提案採用。



翌日はお祝いに最高の山 紅葉真只中 長老ヶ岳 (917m) 登頂 全コースをクリアされた植西さんには改めて完服。

今回のメンバーの平均年齢 77.4 歳 初参加の K さん(70 歳)前回の例会では最高齢者で参加され 今回の山行は最年少者で参加。余りの環境変化で色々と気苦労されながらも年輩連に順応して頂きお疲れ様。今後とも我々のガード宜しく

CL さん,SL さん 料理ソムリエ(U さん O さん)さん 会計対応の H さんお疲れ様でした。

一口感想文

廣瀬秀憲

大長老植西さんの 90 歳誕生祝を兼ね、総員 8 名がバンガローで 1 泊して、半国山 (744M)、長老山 (917M) と山歩きを楽しんできました。

スタートして間もなく亀岡テラスへ、亀岡盆地一面に広がる雲海を堪能。見事です。遠くへ行かなくとも素晴らしい雲海が見られます。(山下長老推薦)

初日は半国山へ。2 日目は長老山へ。

半国山とは、丹波の国の半分が見えるところから名がついたとか？

長老山は紅葉がかなり進んでおり、谷の傾斜に手入れの行き届いた広葉樹が広がり、細い枝に紅、黄色、薄緑の葉が陽を浴び優しい彩を見せていました。

バンガローの夜は羽目を外しての宴会。

女性二人の数多くの豪華なお手製料理をつまみ、日ごろ飲まない高級ビールで乾杯。次に 58 度の泡盛、黒糖焼酎、芋焼酎の差し入れで、取り留めなく話題が飛び交い、つつい飲みすぎてしまいました、実に楽しんだ宴でした。



長老ヶ岳山頂上にて

83 歳の長老が 7 年後に同じような企画をたてる、その時の費用は全て負担すると約束する。楽しみに待ちたい。その時まで体力を維持しなければ？

何にしても 90 歳の長老は、我々に遅れることなく 2 山を登りきる。これには感心します。我々もあやかりたい。日々節制に努めいつまでも体力維持すべきと改めて思い知らされました。

一口感想文

木田修司

昨年夏に沢登りを初めて体験したのがこの半国山の音羽溪谷だった。半国山山頂からの眺めは山また山の連続で、丹波の国の半分が見られることが半国山の名称の由来であると知って納得である。夕食は、Oさん、Uさん手作りのご馳走が囲炉裏台の上いっぱい広げられ、美味しい料理と飲み切れないほどの酒で、先輩諸兄姉のお話を聞きながら楽しいひと時を過ごした。翌日の長老ヶ山は、落ち葉を踏みしめる音が聞こえる静寂な山道で、紅葉した周辺の山々を見ながらの稜線歩きはYさんの卒寿祝いで7年後も同じコースを歩きたい。主役の卒寿植西翁は噂どおりの健脚で、この次は雪山をご一緒できるそうで楽しみである。



半国山山頂上にて

一口感想文

上田秀子

植西さんの90歳のお祝い会に参加しました。初日は半国山以前登った時より川沿いの道がかなり荒れていました、尾根道に出ると歩きやすくなりました頂上に出て半国山という謂れは丹波の国の半分が見られたという眺望を楽しみました。

翌日は長老が岳へ途中まで登るとなだらかな道になり左右に広がる素晴らしい紅葉の景色に見惚れながら頂上に到着この山にはイワカガミの群落が沢山あり春にもう一度登りたいと思いました。

下山すると近くにある七色の木を見に行きましたこの木は一本のカツラの木にスギ、ケヤキ、イロハモミジ、フジ、カヤ、カエデの6種類の木が宿っている珍しい木でそれが美しく紅葉して見事でした。大変楽しい山行でした山下さんありがとうございました。



七色の木